

## 奥尻慕情

薦田靖志

数年前、仕事の関係で何度か北海道の奥尻島を訪れる機会にめぐまれた。美しい自然、豊富な海産物等、訪れた離島の中でも強く印象に残っている島である。

奥尻島は、北海道渡島半島の西方、日本海上に位置する面積144km<sup>2</sup>、人口5,000人弱の島である。

交通手段は、函館より小型機による航空路と江差よりフェリーが就航している（夏場は瀬棚からもフェリー就航）。

地質的にも白亜紀の火山岩類、深成岩類から第三紀層、第四紀層まで幅広く分布する他、西海岸には温泉湧出、島の中央部には硫黄鉱床、パーライト山があり、興味深いところである。

（函館空港にて）

就航している飛行機は、19人乗りの小型機である。飛行中のバランスを取るためか、搭乗手続きに体重を自己申告する必要がある。平然と〇〇kgと答えるピア樽風の御婦人の姿を後ろから見て、頭が痛くなった（何の意味があるのだろうか？）。

（奥尻の味覚）

ウニ、アワビ、ツブ、イカ等季節を問わず新鮮な海の幸が豊富である。某宿での食

事は卵綴じ風の鍋料理であった。箸をつけたら、卵と思っていたのはウニである。貧乏性のせいかわたすら感激した事を覚えている。

イカ刺しが透き通っている事、ツブ貝を食べ過ぎると中毒になることもこの時、学んだ。

（自衛隊レーダー基地）

島のほぼ中央部、神威山に航空自衛隊のレーダー基地がある。調査の関係で司令官室を訪れた。部屋に数々の旧ソビエトの戦闘機の写真が飾ってある。スクランブル発進時の自衛隊機で撮影した写真との事。機種がわかるすばらしい写真が多い。聞くところによると、飛行中に写真を撮ることも、通常の訓練に盛り込まれているらしい。

（悪天候の時）

天気が悪いと空、海ともに航路が欠航となる（離島の宿命？）。

12月に奥尻に渡った時、3日間程足止めを経験した。毎日、荒天の海を眺め、いつ来るか判らない船、飛行機を待つのは、精神衛生上良くないものである。

宿の食事の質が、落ちてくるのも必然性があるようだ。

(西海岸)

集落が集中している東側と比べると、西海岸は人家もまばらで荒涼としたかんじである。海の向こうは、旧ソビエトで、海岸線を歩いていても、外国文字の漂流物が目にとまる。

海岸沿いの神威脇、幌内には花岡閃緑岩の中から温泉が湧出している。

湯船に浸かって水平線に沈みゆく夕日を眺めるのは、壮大である。

交通は不便だが、自然、グルメを十分に

満喫できる島である。機会があれば、一度足を運んでみてください。何かを感じると思います。

寄稿した後に、あの悪夢のような北海道南西沖地震の津波・土砂災害、常宿していた青苗の宿もなくなってしまいました。大自然の恐ろしさを今回ほど強く感じたことはありません。

奥尻島の一日も早い復興を祈念しております。

(住鉦コンサルタント(株))

